

1月の果実の見通し

品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
みかん類	13,085	前年を上回る	15,289	314	78	246	0	0.0	11月半ばまでの出回り不足で高値基調のまま年末を迎えたが、年内産地の越年在庫量は例年よりも多く、年明け産地も作柄悪くないことから市場価格は前年を下回るが、平年並みに落ち着く見込み。
いちご類	3,216	前年を上回る	3,601	1,460	96	1,332	0	0.0	定植期からの天候不良により苗の生育が良く無かったこともあって全国的に出荷量は伸び悩んだまま年明けを迎えそうである。1月以降は適度な大玉もあり、不足感はさほどないことから価格も落ち着いて荷動きは徐々に活発化してこよう。
ほしがき	338	前年を上回る	269	1,741	90	1,762	6	1.8	順調に乾燥も進んでいることと、福島も徐々に体制が整って出荷量が震災前のレベルに近づいてきていることから供給不足の状況は是正された。価格は前年を下回るが、12月に前進出荷されている部分もあり、急落ではない。
りんご類	6,380	やや下回る	5,567	297	104	290	186	2.9	贈答需要が活発な年内よりも年明けは一旦価格を下げてこよう。現実的には店頭での動きは一個単価が高く、それ程活発ではないと予想される。それでも店頭で販売できる程供給が多くないこと、産地価格が高まっていることから、前年の105~110%での市場価格が予想される。12月に入り円安から輸入物価が高まること、輸出が有利になるとの局面であるが、実際にはバナやアボカドが安かったり、輸出は前年程でないといった情報もあり、実態経済は単純でない。